

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700057		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・相生②		
所在地	島根県浜田市相生町1445番地2		
自己評価作成日	2020年9月30日	評価結果市町村受理日	2020年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.jp
----------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	2020年 10月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、入居者一人ひとりの状況に応じて、常に職員一同で考えながら必要な支援をしている。</p> <p>2、自分でできることを活かして毎日が張りのある生活になるように支援している。</p> <p>3、コロナ禍にあって、面会制限や外出制限があるが、少しでもホームの生活が楽しくなるように工夫している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ここ数年は重度の方数名の移動はあったものの入所者の状態は安定しており、職員の異動も無く落ち着いた状況にあったが、コロナでの変化に対して大きなストレスを抱えている様子が強く感じられた。地域的には落ち着きみせるが面会等の制限は続くため、家族との関わりを増やすためオンラインでの面会も近々可能になる予定。地域との関わりが持たなくなり、以前のような外出もしにくい中、施設内でお楽しみ会を持ったり、散歩の機会を増やしたり、作物を育てる喜びを感じるなど、今できることを工夫して行っている。コロナを外部から持ち込まないという職員個々の意識は高く、ストレスを感じつつもチームワーク良く取り組まれていた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を日々のケアの中で思い返し、実践に繋げている。	日々のミーティングや職員会議では繰り返し話をするようにしている。新人職員に対してはオリエンテーションに沿って理解を深められるよう、目標設定し期間を区切って面接で把握するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方々とは職員や入居者様も顔なじみになり、よく声をかけていただいている。コロナ禍の影響で外出がままならないが玄関先でひなたぼっこをしていると必ず声をかけて下さる方がいて喜んでいる。	以前は地域のお祭り等への参加やボランティア交流もあったが、今年に関しては難しい現状。施設前の敷地に出てひなたぼっこをしたり近所を散歩する際など挨拶を交わす程度だが、回覧板等での発信は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 https://www.kaigokennsaku.jp	地域の方々から、家族や知人の認知症状についての相談や質問を受けることが多くなったと感じており、できるだけ親身になって相談に乗るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で会議の開催ができず、文書にて現状を報告し、ご意見があればいただくようにしている。	地域からは民生委員、行政からは担当課や包括、介護保険の他事業者の知見者に家族関係者の参加で定期に開催していたが、今年は文書による利用者の状況や活動報告を行い意見を得る形をとっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは必ず聞き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えて、協力関係を築くように努めている。	昨年までは行政主催の会議や研修会に参加していたが中止の為関わる機会は少ない。その中でも空き情報を流したり、入所の問い合わせは多く受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で、センサーマット等について具体的に話し合っている。また、3ヶ月に1回の身体拘束適正化委員会では正しい知識と理解を深め身体拘束をしないケアを実践している。	外部研修はない為担当委員中心に施設内研修を実施している。報道されている虐待のニュースから具体例を掲げ、より身近な事として考えられるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議において、日々のケアについて意見を出し合い、不適切ケアや虐待に繋がるようなケアがないかを検討し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	報道から得た情報や、内部研修で学んだことを基に、制度について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の締結時はホーム長と担当職員が立ち会い、また、解約・改定などの際は担当職員が、家族や入居者の意見を伺いながら説明をし、理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には内部・外部の相談窓口の説明を行い、面会時には意見や要望などを聞いている。遠方の方には電話やお便りで意見を聴くようにし、いただいた意見は本社に報告し運営に反映させている。	毎月入所者の様子を伝える便りを送ったり、グループ全体でアンケートを実施して意見を得ている。コロナで面会制限があるため電話で声が聞けるよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、職員の意見や提案を気軽に言いあえる関係ができており、管理者は本社に伝えることで反映できている。定期的に個人面談を実施したり、新しい職員にはできるだけ声をかけて思いを聴くようにしている。	会議や年2回の定期面談では意見を得るようにしている。例年福利厚生費で交流会を開催していたが難しいため、施設内で食事会を行いストレス発散の場とした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情に合わせた勤務体制を整えたり、介護福祉士などの資格取得に向けての支援や取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合わせ、内部・外部研修に参加できるように常に配慮ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上を図るために、小規模ケア研修の情報を各ホームに発信したり、他のグループホームの情報を会議などで伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、本人の思いを十分にお聞きし、ホームとしてできる範囲で話し合いを持ち、入居後の生活への不安が少しでもなくなるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経過等の傾聴に努め、家族等が困っていることや不安に思っていること、要望等を聴かせていただき、より良い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や状況を正しく把握し、適している施設やサービスを案内するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、生活する上での本人のできる部分を理解し、作業と一緒にすることで役割を持ち、生きがいを感じていただけるようにしている。常に「有難うございます」の声かけを実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活ぶりや日々の出来事を細かく伝え、協力していただけることはお願いをしている。情報を共有することで、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染防止の観点から、面会や外出がままならないが、電話でお話しをしてもらうなどの支援をしている。	コロナで外部との関わりが難しい為、施設内で夏まつりを企画。昔を感じられるような遊び(ヨーヨー釣り等)をしたり盆踊りを全員で踊るなどして楽しんだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の日常の中での会話や動作の中から、関係性を把握している。席の配置や、作業のお手伝いなどで関りが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	6月に退居され、八千代病院に転院した方のご家族が退去後、相談に来られているが、こちらでできる支援を実施している。また、2年前に退居された方のご家族も立ち寄り職員と一緒にお茶を楽しんでおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、個々の思いや希望を推し量っている。困難な場合は職員皆で検討し、家族や主治医の意見を聴きながら対応している。	普段の関わりの中から聞かれた思いなど担当からの提案を基にスタッフ会議で話し合うようにしている。個別記録の充実や情報の共有に努めている。	認知症の進行を少しでも遅らせられるよう個別支援の充実に努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には実地調査を行い、生活感を共有するようにしている。また、ケアマネージャーからできるだけ多くの情報を収集して、入居後も関係を継続するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子を細かく観察し、記録することで心身状態や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には電話や面会時に、日頃の課題や本人の思いを伝え、話し合っている。また、主治医や訪看、スタッフの意見も取り入れ現状に即した介護計画を作成している。	定期のモニタリングを実施。家族がコロナで来所できない為、職員間で話し合った計画を電話等で伝え了解を得る形をとっている。面会ができない為認知の進んだケースがあり変更を検討中。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録にケアの実践や結果、気づきや工夫が書かれており、それを出勤時に必ず読むことで情報の共有ができています。また、スタッフ会議で意見を出し合い介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて、柔軟な支援や臨機応変にサービスが提供できるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社にお参りしたり、花壇の充実している近所のお庭を訪問し、お話しを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される医療機関で受診や往診を受けながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を継続することも施設の協力医に変更することも可能になっている。全員が協力医に2週間に1回診察を受けている。他の科の利用の場合は職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づき、また、疑問点をノートに記載し、訪看來所時に相談している。急変時には診ていただき適切なアドバイスを受け、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から地域連携室の相談員とは入居者の紹介などで連絡を取り合っている。入院当初から状態の把握に努め、安心して治療に励んでもらい、早期の退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から、面会時等で家族との話し合いを持つことは多くあり、事業所の内情を説明しながら、重度化した場合の在り方について皆で話し合っている。	以前から終末期の対応に取り組んでおり、今年度も1名を看取っている。ドクターの協力も得られることから、今後に於いても本人、家族関係者の希望がある場合には取り組んでいく意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての研修を行ったり、消防署の研修に参加し勉強会を開いたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が地域の「防災研修会」に参加したり、施設で行う消火・避難訓練には近所の住民にも参加してもらい、地域との協力体制を構築している。	30年前に1度水害が起きている。それ以後は起きていないが、近くに土砂崩れの危険性がある場所もあるため、災害別に避難マニュアルを作成している。近隣に2名の協力者も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、本人の気持ちを押し量るように心がけ、声かけには十分に配慮するように努めている。プライバシー保護のため、トイレ内にはタオルを用意し、排泄中の目隠しに利用している。	入浴や排泄介助時の男性介助に抵抗のある方は女性で対応。年1回本社で研修が行われており、持ち帰りユニット内で研修を行ったり、会議の場でも繰り返し確認するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	作業などをお願いする時には「今お願いしてもいいですか？」と本人の気持ちを聴くように声掛けしている。また、「外に出たい」「散歩に行きたい」等の発言にはしっかり耳を傾けて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	口腔ケアやトイレ誘導、また食事や入浴などに拒否があっても、強制するのではなく、少し時間を空けて再び、声かけを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服を自分で選んでもらったり、化粧品等の希望をされたときは一緒に買い物に出かけている。また、外出の際にはその人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等の下準備から炒めたり等の調理、また、盛り付けや食器洗い等、いろいろな作業を一緒に行っている。	皮むき器より包丁を上手に使う方があり、食材を切ったり、鍋で炒めたり盛り付けや洗い物などできる作業は職員と一緒にを行うようにしている。作業が偏らないよう負担に感じないように配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査を基に、主治医、看護師と相談し、意見をいただきながら、毎日の記録を基に検討を行っている。また、嫌いな食材については、できる限り代替えで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、確認をしている。個々の状態に応じて、できない部分を支援している。また、歯科衛生士の資格を持つ職員の指導の下、ブラッシングの支援を行うことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録を基に個々の排泄パターンをしり、声かけや誘導を行っている。可能な限りトイレで排泄ができるように支援している。	車いすでおむつ使用の方には2時間を目安に定期交換したり、個々に合わせ支援している。紙パンツにパット併用の方が大半のため尿量で使い分けたりコスト面に配慮するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、十分な食事量と水分量を摂取できるように声かけしている。また、個々に応じ、早朝の冷水、牛乳を提供したり、散歩などの運動を一緒に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として曜日や時間を決めてはいるが、本人の意向に沿って随時、変更を行っている。また、急な面会がある時にも同様に、日を変えたり、時間の調整を行っている。	重度で浴槽に入れない方が2人あり、シャワー浴対応としている。週2回以上は入れるようにしており、入浴嫌いの方には声かけなど工夫して入ってもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛の訴えをされる方や、眠そうな方には、居室で横になっていただいている。不眠傾向の方については主治医とよく連携をとり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常に分かるようにノートに記載し、理解を深めている。また服薬の支援や受診、往診時の対応はできるだけ多くの職員が関わるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を発揮できるように、食事作りや裁縫などの声かけをしている。おはぎや団子作り等、職員が教わることも多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響でなかなか外出が難しくなっているが、収束したら以前のようにひとり一人の気持ちに沿った支援をしたい。天気の良い日には、近所の散歩やひなたぼっこに努めている。	コロナの為以前のようにはいかず、施設前が広い為、ひなたぼっこをしたり近所の散歩が主になっている。散歩では庭を見せてもらったりウサギを見たりすぐ上にある神社参りがコースになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金を持参される方は殆どいないが、立替で買い物をするときには一緒に買い物に出かけ、支払いをしていただいたりする。また、初詣ではお賽銭を各自に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の影響で電話や手紙の問い合わせが多くなっている。本人が望むときには職員が支援をし電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の壁には月々の担当職員が入居者と一緒に作成した飾り付けに工夫を凝らし季節感を取り入れている。西日の強い居室にはよしずを立てかけて不快にならないように配慮している。	住宅地の為窓から自然の景色を楽しむことはしにくい為、季節を感じられるように毎月入所者と一緒に壁飾りを作成して掲示している。施設前も広く中庭からも光が差し明るい。交通量も少なく静か。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや玄関先にはいつでも座れるようなベンチを配置し、ホールにはソファや椅子を置いて自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する中で必要になった物は直ぐに購入するのではなく、家族に相談し家にある使い慣れたものや好みのものを持ってきていただいたり、こちらで準備するようにしている。	使い慣れた物の持ち込みを勧めているが、備え付けの収納があるため大きい家具等は少なめ。亡くなったご主人の写真や時計、孫の作品など思い入れのある物が飾られてる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力低下の方がベッドからの立ち上がり時に滑らないようにマットを張り付けたり、失禁による衣類を入れるバケツを置いたり、ひとり一人の状況に応じて工夫している。		